

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2019

10

No.824

P2 特集①

じぶんの町を 良くするしくみ
身近なところで役立つ 共同募金のつかいみち

P5 特集②

地域での支え合いをすすめよう
～「支え合い社会」県民フォーラムから～

P7 みんなでつくるひょうごの福祉

地域包括ケアを推進するために
～さまざまな専門職が繰り広げる手作り劇～

P8 キラリ★社会福祉法人

小野市社会福祉法人連絡協議会
(ほっとかへんネットおの)
住民のニーズから出発した
買い物バスツアー

P9 私の物語

盲ろう者が笑顔で
楽しく暮らせるように
井上 智文さん(加東市)

P10 ひょうごの福祉NOW

P12 インフォメーション

武庫川コスモス園(尼崎市)は、
秋の花の名所になっているよ。



10月から「赤い羽根共同募金運動」がスタートします



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。



じぶんの町を 良くするしくみ

身近なところで役立つ 共同募金のつかいみち



兵庫県共同募金会 マスコット
あかはねちゃん

今年で73回目を迎える赤い羽根共同募金運動が10月からスタートした。

戦後に始まった共同募金は、地域福祉を進めるためにさまざまなところで活用されている。

今回の特集では、共同募金のつかいみちを具体的に理解いただくため、県内の募金の活用事例を紹介する。

いろいろなところで 役立つ共同募金

共同募金の約8割は

寄付者の身近なところで活用

共同募金運動は、戦後間もない昭和22年に民間の社会福祉施設・団体を支援するために始まった。現在では、全国的に「じぶんの町を良くするしくみ」をキャッチフレーズに、集まった募金を、身近なボランティア団体・NPO、福祉団体などの活動支援の他、社会福祉施設の整備、自然災害に備えるための積み立てにも活用するなど、民間の福祉のために大きな役割を果たしている。

今年度は、全県で5億2682万円を目標に募金運動を展開し、その約8割を集めた市区町村の身近な福祉活動で活用することとしている。つかいみちは、各市区町の「共同募金委員会」が地域の多様な人々や団体の参画を得て決めている。

次ページでは、県内の共同募金の身近な活用事例を紹介する。

令和元年度の募金の主な活用先・配分割合(予定)

地域交流、子育て支援、障害者支援等、
身近な地域の福祉活動(78%)



社会福祉施設の整備
(3%)



自然災害に備えた積立
(4%)



県域で活動するボラン
ティア団体(2.5%)

県本部・共同募金
委員会活動費(12.5%)

身近なところで役立つ共同募金①



子どもの居場所づくりを応援 (神戸市兵庫区)

神戸市兵庫区共同募金委員会では、放課後や学校が休みの日に子どもたちが孤立しないよう、「子どもの居場所応援団プロジェクト」をテーマに募金活動を行い、子ども食堂、クッキングクラブ、学習支援教室などに助成した。ボランティアグループ「こどもワクワク食堂」が運営する子ども食堂では、「みんなで食べたらいいね」を合言葉に近所の大人も参加して、食を通じた交流に加え、学習支援も行っている。



〔募金のつかいみち〕食堂のテーブルなど備品

身近なところで役立つ共同募金②



小地域の交流活動、支え合いを 応援(西宮市)

西宮市共同募金委員会では、地域の自主的、先駆的な交流活動や支え合いを応援しようと、自治会やボランティアグループ、NPOが実施する集いの場、地域のイベント、不登校の子どもと親の居場所づくりなどに助成した。助成に際しては公募し、プレゼンテーション審査を行った。その一つ、老人会の有志が中心のグループ「カフェなないろ」は、市営住宅の集会所を活用してサロンを立ち上げている。



〔募金のつかいみち〕サロンの開設のための備品など

身近なところで役立つ共同募金③



ひきこもりがちな若者の 社会参加を応援(丹波篠山市)

丹波篠山市共同募金委員会では、市内に60人を超える若者がひきこもりになっているという調査結果を踏まえ、市社会福祉協議会が運営する「喫茶ふれあい」を活用して、ひきこもりがちな若者の就労体験に助成をした。対人関係に不安がある若者には調理補助や事務補助など、若者らができることを取り組んでもらっている。この取り組みを積み重ねることで、若者らの「自信」が生まれる場になっている。



〔募金のつかいみち〕若者の作業代など

身近なところで役立つ共同募金④



“スノボ”を使った交流の場 づくりを応援(香美町)

香美町共同募金委員会では、不要になったスノーボードを使い、ボランティアがボードをベンチに加工し、集落の会館前などに設置して、住民が集う場をつくる活動に助成をした。「集落にベンチでもあったら腰かけてゆっくり話せるのに」という住民の声がヒントになった取り組みとして、ベンチづくりは大工さんの指導のもと、材料も提供いただき、子どもから大人までが参加。作り手の思いが詰まったベンチと目録が集落に贈られている。



〔募金のつかいみち〕ベンチの材料・工具

社会福祉施設の整備、災害への備えにも活用

兵庫県共同募金会では、社会福祉法に規定する第1種、第2種の社会福祉施設(ただし、一部を除く)の補修や備品の整備にも配分を行っている。近年は、老朽化した機械や車両の買い替えのニーズが多い。



社会福祉施設の整備に役立つ共同募金

老朽化した業務用洗濯機、乾燥機の買い替えに活用。



養護老人ホーム 夢前和楽園 (姫路市)

また、社会福祉法に基づき、毎年、募金の一部を県内・国内の自然災害に備え、「災害準備金」として積み立てている。災害が発生した際には、災害ボランティアセン

ターの立ち上げ経費、被災者を支えるボランティア活動に役立てられている。



災害時の支援活動に役立つ共同募金

平成30年7月豪雨災害では、県内の被災地でも共同募金を活用して災害ボランティアが活躍。



(神戸市灘区)



(宍粟市)

地域のニーズに応える共同募金運動を目指して

社会的孤立を背景にしたさまざまな生活・福祉課題への対応が必要とされる中、近年、ますます地域福祉が重要視されている。地域福祉の推進を目的とした共同募金は、重要な財源としてさらなる運

動の推進が求められている。

県共同募金会では、平成28年度に5カ年の中期計画「ひょうご共同募金運動推進2020年計画」を策定し、共同募金運動を4つの要素に分けて、市区町共同募金委員会と県共同募金会の協働推進目標を掲げて改革を進めている。

(図1)

- 配分** 今回の福祉課題に対応した配分になるよう点検や見直しを進める
- 広報** みんなが福祉の課題を知り伝えられるようにする
- 募金** 人と人とのつながりを大切にしたい募金活動で共感を得る
- 組織** 共同募金運動への協力の輪をさまざまな人たちに広げる

図1.「ひょうご共同募金運動推進2020年計画」4つの共同推進目標(要約)

共同募金は、地域のニーズを踏まえ、事前につかいみちを定める「計画募金」である点特徴だ。その特徴を生かし、地域の住民に共同募金のつかいみちや地域の福祉

課題を伝え、地域福祉への理解と参画を広げることが大切である。今、地域で起きている問題を「ほっとかへん」という運動性を継承していくことに大きな意義がある。今後は、各市区町域で、住民のニーズに応じた配分を進めるとともに、自治会などの協力による戸別募金や企業などの法人募金のさらなる強化を進める。また、1月から3月にはテーマを定めた募金方法としてクレジットカードの活用など、幅広い県民から、さまざまな形の参画と協力を得た募金運動の展開を目指している。

赤い羽根データベースはねっと

全国の共同募金のつかいみちをデータベースにしています。市区町ごとの共同募金のつかいみちをご覧ください。



URL <https://hanett.akaihane.or.jp/hanett/pub/home>



地域での支え合いをすすめよう

～「支え合い社会」県民フォーラムから～

本会では、さまざまな団体の参画を得て平成24年度から「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンを推進している。近年、生活困窮や社会的孤立などが課題となる中、地域共生社会に向け、居場所づくりや支え合い活動など、住民主体の地域づくりが各地で広がっている。

8月26日に開催した「支え合い社会」県民フォーラムは、全県キャンペーンの年次総会と兼ね、無縁社会に警鐘を鳴らし、みんなで「支え合い社会」を目指していくことを目的に開催した。

今号の特集では、フォーラムの概要報告とともに、これからの地域共生社会づくりに向けた取り組みのヒントを探る。



※今号は、「「ストップ・ザ・無縁社会」地域での支え合い」のページを拡充し、特集として編集しています。

「支え合い社会」県民フォーラムの開催について

本会及び「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン推進協議会の主催で、8月26日に神戸芸術センターにおいて、400名の参加を得て「支え合い社会」県民フォーラムを開催した。

現在、「地域共生社会」の実現が大きなテーマとなる中で、引きこもりの方、認知症の方、障害を持つ方などさまざまな生きづらさを抱える人たちが、排除されることなく、それぞれ役割を持って暮らせる地域づくりを目指すことが求められている。この情勢を鑑みながら、県民フォーラムは「記念講演」と「パネルディスカッション」の2本立てのプログラムで企画をした。

記念講演から

前半の記念講演では、毎日新聞社論説委員の野沢和弘氏に登壇いただき、「障害のある人もない人も、老いも若きも共に暮らす街を目指し」と題し講演を頂いた。

野沢氏は新聞記者であるとともに、

全国初の障害者差別禁止条例「障害のある人もない人も共に暮らしやすい千葉県づくり条例」の制定で中心的役割を果たし、また厚生労働省の各種委員などを歴任されている。そうした経歴から、警察庁と連携し、警察官に障害者理解を促す取り組みや、障害を持つ当事者をゲスト講師に招き開かれる「障害者のリアルに迫る東大ゼミ」など、さまざまなエピソードを交えた講演を展開。「合理的配慮」の視点でまちづくりを進める重要性、その基盤としての相互理解や教育の重要性などを語りながら、違いを認め合い、多様性を楽しむというこれからの社会のあり方を提起した。

参加者からは、「合理的配慮で社会を変革できる可能性を感じた」



「未来を変える若者の姿も見られ、今後の社会をあきらめずにつくっていききたい」などの声が寄せられた。

パネルディスカッションから

講演後のパネルディスカッションには、加古川市で認知症の人と家族、サポーターの会を立ち上げ、活動する吉田正巳氏、伊丹市で「ありおかまちカフェ」を運営する福田知子氏、障害者の活動拠点づくりとともに地域福祉を推進する淡路市社協の風保憲氏がパネリストとして登壇。コメンテーターとして野沢和弘氏に同席をいただきつつ、武庫川女子大学の松端克文教授のコーディネートにより「住民・当事者主体」「共生のまちづくり」をキーワードに進行した。



加古川認知症の人と家族、サポーターの会 吉田 正巳氏

吉田氏は、平成22年の立ち上げから会の活動を広げてきた経緯を語るとともに、認知症の人の「出番を

地域に生み出すこと、認知症の人と「共に生きる」という視点でまちづくりを進めることが重要だと語った。また、支援される側に立つばかりでなく、「当事者や家族ならでは」の主体的な活動を生み出したいと、今後の意欲を語った。



伊丹市民生委員 児童委員連合会 有岡校区幹事 福田 知子氏

民生委員の活動経験から、仲間と一緒に地域の居場所・交流の場「まちカフェ」を始めた福田氏は、地元企業や自治会とつながり支援を得られた立ち上げ当初の経緯や、閉じこもりがちだった人やさまざまな障害を抱えた人が、今ではカフェ運営に欠かせない存在になっているエピソードを紹介。実践発表の最後には「地域での出会いと力に支えられた。いろんな方の参画・交流ができる場所でありたい」と地域と共に歩む「まちカフェ」の将来像を語った。



淡路市社会福祉協議会 事務局 局長 風保 憲氏

淡路市社協の風氏は、障害者の就業支援を、うどん屋の運営や中山間地での移動販売という形で実現させた背景や経緯を発表。障害を持つ当事者、住民、社協が相互にエンパワメントし合う共生のまちづくりへの思いを語った。また、高齢化や過疎化が進み、「移・医・食・住」の生活課題が顕在化する地域の将来を見据え、誰もがお互いを認め合う地域づくりと、助け・助けられる関係を循環させる「共生循環型地域社会」の実現に向けたこれまでの実践と今後の展望を紹介した。

「支え合い社会づくり」に向けた実践のヒントを探る

これらの3つの実践事例は、一見取り組みの主体も、都市部・郡部という地域事情も異なるように見える。しかし、各実践の中には共通す

るポイントがいくつも見られたのでまとめたみたい。

その1つが、「参加と役割」である。認知症がある人も、引きこもりがちな人も、障害がある人も、必要とされ、役割を発揮できる環境を地域に整えてきた点だ。

2つ目が、「強み」を探して活動を展開する点である。病気や障害、高齢化、過疎化というマイナスに思える要素を踏まえつつも、地域に存在する資源を探し、つなげ、生かす発想だ。

3つ目は、「楽しい・おいしい・ホッとできるものに人が集う」という発想だ。各地でのサロン活動やカフェなど、居場所づくりの重要性が強調される中で、これは具体的にどのような場をデザインするかを考えるヒントになるだろう。

今回のフォーラムでは、記念講演からさまざまな気づきを得つつ、パネルディスカッションでは当事者・住民が主体の力強い実践に触れた。このフォーラムをきっかけに、県内各地で「支え合い社会」に向けた具体的な取り組みが広がっていくことが期待される。

みんなでつくるひょうごの福祉



地域包括ケアを推進するために

さまざまな専門職が繰り広げる手作り劇

神戸市垂水区を拠点とする特定非営利活動法人エナガの会は、区内の専門職による勉強会から活動が始まり、現在は市民フォーラムで住民向けに地域包括ケアシステムをわかりやすく伝える劇をしている。今回はその取り組みを紹介するよ。

専門職が集い、顔の見える関係に

地域の医療介護連携に取り組む、エナガの会は、代表の中村治正医師が平成21年に地域のケアマネジャー・看護師・介護職などの医療福祉専門職に声をかけ、勉強会や意見交換会を開いたことから始まる。中村代表は「介護保険制度の開始以降、連絡のやりとりだけが本当の連携なのか疑問に思っていた。毎月テーマを決めて集まることで、お互いの仕事や考え方の理解が進んだ」

と語る。専門職同士だけでなく、住民にも自分たちの役割を知ってもらいたいと、平成25年から地域包括ケアをわかりやすく伝える劇を定期的に上演している。

劇を通じて地域包括ケアを推進

劇では、ある住民を主役に設定し、「退院」「終活」など、人生の節目にどのような専門職が関わり、個人としてどのような準備をしておくべきかを伝える内容で、医療職・ヘルパー・消防・行政・住民などが自身の職業役で出演する。セミナー形式ではいまひとつだった住民の反応が、劇にしてからは「専門職を身近に感



23名の専門職で始めた劇も今では70名のメンバーが参画している。

じ、相談しやすくなった」との声が届く。寄せられるようになった。また、演じる専門職同士も、練習で知り合っている。普段の連携が取りやすくなったという。社会福祉士の木村和弘理事が担当する脚本は2時間超の大作で、「どの職種の強みも伝えられる脚本を意識している」と語る。近年は県内外から問い合わせがあり、輪が広がってきている。

切れ目のない支援のために

活動を振り返り、中村代表は、「まずは顔の見える関係になり、目標を共有できれば自然と連携が進む」と語る。薬剤師の山本哲也副代表は「地域包括ケアを次世代に伝えていくため、若い世代に出演してもらいたい。多職種の連携が地域にもたらす効果も実感してほしい」と話す。誰もが暮らし

やすい地域をつくるために、今後も劇を通じて専門職が横断的につながり合うことで、切れ目のない支援のネットワークが広がっていく。



空き家を活用した「エナガの家」では、研修会も開催。

取材を終えて

会の名前は、仲間の子育てを手伝う習性のある「エナガ」という鳥にちなみ名づけられたそうです。見る側も演じる側も、劇を通じて、自らを「家族の一員」「職場の一員」という視点から、「地域の一員である私」を考えるきっかけになると感じました。

特定非営利活動法人エナガの会
神戸市垂水区桃山台2-19-15
TEL: 078-1752-1177

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人☆

小野市社会福祉法人連絡協議会
(ほっとかへんネットおの)

買い物バスツアー
～専門職の付き添いで
安全・安心に～

住民のニーズから出発した買い物バスツアー

小野市では、市内全ての社会福祉法人が連携し、平成29年6月に「ほっとかへんネットおの」を設立。「無理なくできることから」をモットーに、20の法人が各地で活動しています。

今回は、高齢者への移動支援である「買い物バスツアー」と、その取り組みを始めた後の、市内の社会福祉法人の活躍を紹介します。



住民のニーズに法人の専門性で応える

小野市では、平成28年度に介護保険制度における生活支援体制整備事業の第1層(市全域)の協議体が設立された。以降、毎年1～2地区ずつ、第2層(概ね小学校区域)の協議体が立ち上がっており、その地区の社会福祉法人が、協議体の設立準備の段階から住民らと共に参画している。

よりそい協議会での
熱心な話し合い



平成29年度に設立した「^{きし}来住地区よりそい協議会」では、一つの取り組みとして地域の困りごとについての訪問調査を行った。その結果、高齢者の買い物、特に移動手段へのニーズが明らかになったことから、「買い物バスツアー」を試行的に実施。その振り返り会議では、乗降や買い物での介助が必要な住民が多く、自治会役員や民生委員・児童委員だけでは対応が難しいという課題が共有された。「介護の専門性がある社会福祉法人の職員が付き添ってくれたら」という住民の期待に応えようと、職員が「買い物バスツアー」への付き添いを開始。今では月1回のツ

アーに介護職員などが同乗するようになり、住民と社会福祉法人が協働で実施するバスツアーが来住地区に定着している。

地域に出ることで法人内の雰囲気も変化

ほっとかへんネットおのの廣田美智子代表(社会福祉法人栄宏福祉会)は、「ほっとかへんネットが立ちあがるまでは、出前講座やお祭りなどを法人単独で実施していたが、これでいいのかという気持ちがあった。今は、私たちの専門性が求められて地域に出ているため、職員は非常にやりがいを感じている」と語る。他の職員も影響を受けることで法人内の雰囲気も変化し、本来業務の質も向上しているという。

また、高齢、障害、児童などの種別を超えた横のつながりができたことも、ほっとかへんネットの設立が地域にもたらした変化だ。このことについて、廣田代表は「呼びかけてくれた社協の存在が大きい。社協は地域になくってはならない“まとめ役・つなぎ役”」と社協が果たした役割を振り返る。さらに、「今は住民が自分の住む地区の社会福祉法人の存在を認識してくださっている。今後は『ほっとかへんネットおの』をさらに知ってもらうため、広報にも力を入れたい」と、地域と共に歩んでいく今後の展望を力強く語った。

ほっとかへんネットおの
事務局：社会福祉法人小野市社会福祉協議会
TEL：0794-63-2575

県民・七ひろろう者の皆さんと
共に歩みたい



このコーナーでは、地域福祉のキーパーソンや実践者・当事者らのエピソード・想いを紹介していきます。

盲ろう者が笑顔で楽しく暮らせるように

Personal History

昭和31年(0歳)先天性のろう者として生まれる
昭和53年 加東聴覚障害者協会会長に就任
平成15年頃(47-48歳)コンピューター部品製造会社を退職
平成23年(57歳)特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会へ入会
令和元年(63歳)特定非営利活動法人兵庫盲ろう者友の会理事長に就任

いのうえ ともふみ
井上 智文さん
(加東市)

耳だけでなく、
目も見えにくくなって

私は先天性のろう者で耳が聞こえません。さらに、40代から網膜色素変性症のため視野が徐々に狭くなり、現在はほとんど物が見えない状態です。目が悪くなるまでは、コンピューター関係の部品製造業を30年以上勤め上げましたが、仕事にミスが出るようになり退職せざるを得ませんでした。

以前は一人で気楽に外出していたものの、一人での行動は怖く、特に初めての場所は目的地を探すのに時間がかかり、車や人の交通量もわからないため、同行援護のガイドとともに外出しています。買い物や食事など生活全般でも不便を感じ、当時はとてもシヨックでした。

まだまだ知られていない
七ひろろう者の存在

当時、市役所では、「盲」と「ろう」の重複した障害の想定が無く、支援に関する情報が得られませんでした。その後、県の聴覚障害者情報センターにつながり、ようやく福祉機

器や盲ろう者友の会の情報に辿り着きました。このように、盲ろう者の存在が認知されていない地域がまだ多くあります。

友の会では、会員が主体的に役割を担い、会員相互の交流から一般の方への普及啓発、介助や通訳の充実など幅広く活動しています。私も役割を担ううちに、地元で所属してきた聴覚障害者協会の活動ともリンクして、地域に盲ろう者の情報を伝え、我々の存在を知ってほしいと思うようになりました。そして、この8月から会員の皆様から選任いただき友の会の理事長に就任しました。例えば、盲ろう者と出会うこともどう接していいかと距離を置かれがちですが、互いにコミュニケーションをとり、助け合える社会になればと思っています。

みんなが明るく笑顔で
暮らせるように

盲ろう者がコミュニケーションをとるには、触手話や指点字などの技術や独自の情報機器が必要です。視覚や聴覚の障害に特化した伝達手段では補えない面があり、友の会



手で触れ合い「指点字」や「触手話」で情報を受け取ります。
(夏休みちびっこ盲ろう者体験教室の様子)



では、通訳者の養成や派遣に取り組んでいます。大阪では、盲ろう者のためのグループホームが建設され、入居者が支援を受けながら自立した暮らしを送り、入居者同士や地域の方との交流が生まれています。このようなグループホームを県内に建設するのが今後の夢です。

みんなが明るく笑顔で楽しめる生活を送ることを目標に、これからも県民の皆様や盲ろう者の皆様と共に歩みたいと思っています。

特定非営利活動法人 兵庫盲ろう者友の会

TEL 078-341-8822 FAX 078-341-8822

**次世代リーダーが集結！
経営計画策定リーダー
養成ゼミナールを開催**

8月29日、県福祉センターにおいて今年度第1回目の「経営計画策定リーダー養成ゼミナール」を開催し、9法人から36名が参加した。このゼミナールは本会が事務局を務める、県社会福祉法人経営者協議会・青年協議会（以下、「青年協」）が主催しており、講師である兵庫県立大学政策科学研究所長の當間克雄教授が執筆・監修し、昨年発行した「社会福祉法人経営計画策定ワークブック」を用いて、全5回にわたり開催される。

ゼミナールの開講にあたり、青年協の飯田副代表から「青年が中心となり経営計画策定に取り組む意義」と題し、次代を担う青年層が経営の中核を担う重要性について説明がされた。

続いて當間教授から「経営計画の意義と必要性」について講義があり、経営計画策定までの流れやビジョンとモチベーションの関係性を学ぶとともに、参加法人ごとに

協議をしながら「経営理念に基づく3年後のビジョン」を設定する演習を実施した。

次回以降は、自法人の現状と取り巻く環境変化を把握したうえで、掲げるビジョンとのギャップを抽出し、それを克服する方策を考えることになる。さらには経営課題を克服するための戦略を見える化し、具体的な実行計画の策定方法、進捗管理や評価の方法までを学ぶ予定だ。



経営理念に基づき、さまざまな視点からビジョン検討に取り組む様子

**令和2年度の
社会福祉政策への提言**

今年8月、県社協では、「令和2年度兵庫県社会福祉政策への提言」を取りまとめた。本提言書は、関係機関・団体からの意見を基に、その中から共通する事項を「提言」とし、特に県施策への反映を求めていきたい事項を「重点提言」として取りまとめている。

現在、国は一億総活躍プランを掲げ、誰もが生涯にわたって活躍できる社会の実現に向け、子育て環境の整備や介護離職ゼロなど「全世代型の社会保障制度」への転換を打ち出している。社会福祉分野では「地域共生社会」の理念のもと、住民主体の地域づくりと多様な主体との連携・協働による包括的な支援体制づくりに向けた施策の具体化が進められている状況だ。

この情勢も踏まえ、今回の提言書には根拠となるデータも織り交ぜつつ、計155の項目を提言として整理し、とりわけ重点提言を、
①福祉人材確保施策のさらなる推進、②大規模災害に備えた支援体制の強化、③地域共生社会の実現に向けた支援強化、として、内容の焦点化を図っている。

さらには、本年、滋賀県大津市や兵庫県西宮市で園児が巻き込まれる交通事故が発生し、子どもたちの安全を脅かす事態が連続したこと

を踏まえ、「保育所等における子どもの安全・安心対策の強化」を緊急提言として盛り込んだことも、今回の政策提言の特徴になっている。

**令和2年度
兵庫県の社会福祉政策への
提言・重点提言**

- ① 福祉人材確保施策のさらなる推進
 - ② 大規模災害に備えた支援体制の強化
 - ③ 地域共生社会の実現に向けた支援強化
 - (1) 地域福祉推進の担い手づくりに向けた支援策の強化
 - (2) 地域における包括的な支援体制の構築
 - (3) 社会福祉法人の「地域における公益的な取組」の推進
- 緊急提言**
保育所等における子どもの安全・安心対策の強化



長岡壯壽議長、浜田知昭副議長への提言



井戸敏三県知事への提言

先述の提言書をもとに、8月7日の兵庫県知事への提言内容の説明を皮切りに、県議会議長・副議長、県議会の各会派、地方4団体への提言内容の説明を実施し、兵庫県の社会福祉施策の一層の充実につながるよう理解を求めた。

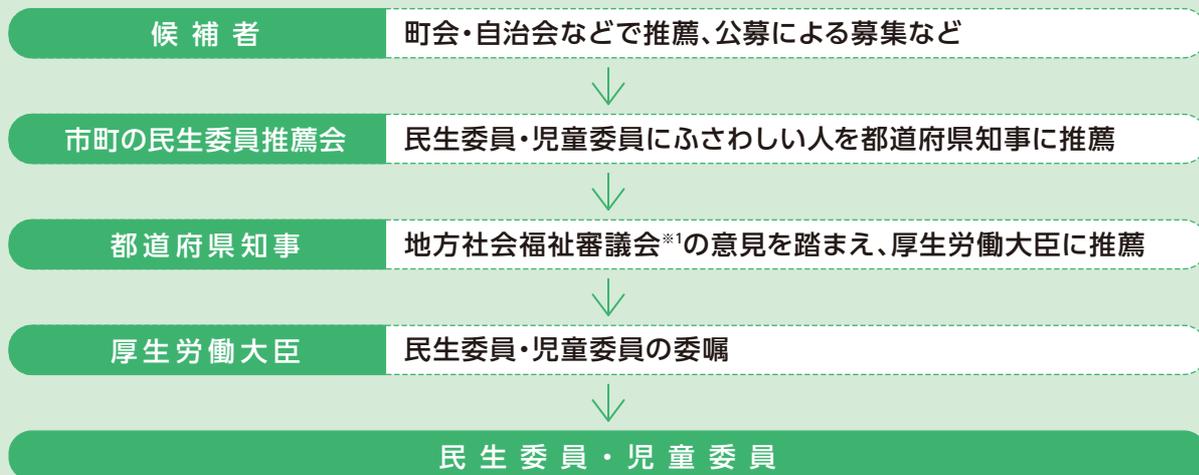
県知事等へ提言活動を実施

12月に民生委員・児童委員の全国一斉改選があります

県内では9,900人あまりの民生委員・児童委員が、地域の「身近な相談役」として、高齢者や障害のある方、子育てや介護をしている方などが抱える困りごとに寄り添って、活動をしている。

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱された非常勤の地方公務員で、任期は3年であり、本年12月に全国一斉改選が行われる予定だ。

民生委員・児童委員が選ばれる手順

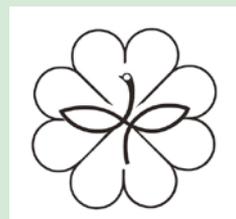


※1 地方社会福祉審議会は、社会福祉に関する事項を専門家の立場から調査・審議するために都道府県、指定都市及び中核市に設置される審議会。

今回の全国一斉改選は、平成29年5月に民生委員制度創設100周年という節目を迎えて以降、初めての改選となる。

民生委員・児童委員は、地域福祉推進のキーパーソンであると同時に、見守り活動やサロン活動などの小地域福祉活動、生活福祉資金貸付制度における相談援助などにおいても、市区町社協にとっての重要なパートナーであることから、一斉改選を迎えても円滑に活動ができるよう、市区町社協をはじめとした関係者を挙げて、準備や環境整備を進めていただくことが大切になる。

※全ての「民生委員」は児童福祉法によって「児童委員」も兼ねており、妊娠中の心配ごとや子育ての不安などに関する相談・支援も行っている。



民生委員のシンボルマーク
(四つ葉のクローバーをバックに、民生委員の「み」の文字と児童委員を示す双葉を組み合わせ、鳩をかたどって愛情と奉仕を表現)

INFORMATION

助成金情報

県社協「ひょうごボランティアラザ」のWEBサイトでは助成金情報を多数掲載しています。



東京海上日動あんしん生命保険株式会社 奨学金制度

経済的理由により大学等への進学を諦めないために、奨学金を給付します。

対象 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、大学等への進学希望がある方。年間世帯収入金額が指定条件を超えない方。

助成額 1件年間30万円

締切り 令和元年10月31日(木)消印有効

☎ ㊟ 公益社団法人日本フィランソロピー協会
TEL 03-5205-7580

URL <https://www.philanthropy.or.jp/anshin/>

日本郵便株式会社 2020年度年賀寄附金助成

社会福祉の増進を目的とする事業など、「お年玉付郵便葉書等に関する法律」に定められた10の事業に対して助成します。

対象 一般枠：社会福祉法人、更生保護法人、一般社団法人、一般財団法人、公益社団法人、公益財団法人、特定非営利活動法人(NPO法人)
特別枠：営利を目的としない法人

助成額 1件上限500万円 ※活動・チャレンジプログラムは上限50万円

締切り 令和元年11月8日(金)消印有効

☎ ㊟ 日本郵便株式会社
TEL 03-3477-0567

URL <https://www.post.japanpost.jp>

公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 2020年度公募助成

「安全で安心できる社会」の実現に関する活動や研究の応募をお待ちしています。

①活動助成

対象 近畿2府4県を拠点にする、事故、災害や不測の事態に対する備え、およびその後の心や身体に関するケアに関する活動をする非営利の民間団体(法人格の有無は不問)

助成額 1件上限70万円

②研究助成

対象 事故、災害や不測の事態に対する備え・事故防止、およびその後の心や身体に関するケアに関する研究を行う、近畿2

府4県にある大学などに所属している研究者

助成額 1件上限200万円(①②総額5,000万円程度を予定)

締切り ①②ともに令和元年11月14日(木)必着

☎ ㊟ 公益財団法人JR西日本あんしん社会財団
TEL 06-6375-3202

URL <https://www.jrw-relief-f.or.jp/>

公益財団法人ヤマト福祉財団 障がい者給料増額支援助成金

障害者の給料増額に一定の実績がある施設・事業所や全国平均以上の給料支給実績がある施設・事業所に対し、事業資金を助成します。

対象 所定の要件を満たす就労継続支援A・B型事業所、地域活動支援センター、生活介護事業所

助成額 【ジャンプアップ助成金】1件定額500万円、【ステップアップ助成金】1件上限200万円

締切り 令和元年11月30日(土)消印有効

☎ ㊟ 公益財団法人ヤマト福祉財団
TEL 03-3248-0691

URL <https://www.yamato-fukushi.jp/>

募集

介護の日イベント参加者の募集

地域で暮らす全ての人々で支え合う介護をめざし、「介護」についての理解と認識を深める機会として『介護の日イベント』を開催します。

会場 ニチイ学館 神戸ポートアイランドセンター(神戸市中央区)

日時 令和元年11月2日(土)12:00~17:00

内容 フォーラム(長尾クリニック院長・長尾和宏氏の講演)、介護技術コンテンツ

参加方法 ホームページより申込み用エクセル表をダウンロードし、メールに添付して送信するか、必要事項を直接メールに入力して送信。

締切り 令和元年10月11日(金)

参加費 無料

☎ ㊟ 一般社団法人 兵庫県老人福祉事業協会
TEL 078-291-6822

URL <https://www.hyogo-kenroukyo.jp/home/>

行事予定

- 10月 1日** 赤い羽根共同募金運動キックオフイベント
◆鉄人広場(神戸市長田区)

8日 新任職員ステップアップ研修(Bコース)
◆県福祉人材研修センター

9日 日常生活自立支援事業 町社協議会
◆県福祉センター

11日 サービス提供責任者研修(ホームヘルプ事業者協議会)
◆県農業共済会館

12日 福祉の就職説明会(尼崎会場)
◆尼崎市中小企業センター

民間社会福祉事業職員互助会 創立45周年事業
◆神戸メリケンパークオリエンタルホテル

13日 介護支援専門員実務研修受講試験
◆神戸大学国際人間科学部

15日 会計実務研修(税務)
◆県福祉人材研修センター

第1回ひょうごボランティアラザ運営協議会
◆ひょうごボランティアラザ

21日 若年性認知症とともに歩むひょうごの会 全体会
◆県学校厚生会館

24日 日常生活自立支援事業生活支援員研修会
◆県学校厚生会館

職場定着支援研修
◆県福祉人材研修センター

経営協第253回理事会・例会
◆県民会館

25日 経営計画策定リーダー養成ゼミナール
◆県福祉センター

苦情解決セミナー(神戸会場)
◆県立のじぎく会館

地域福祉研修
◆県福祉人材研修センター

26日 就職説明会(明石)
◆あかし市民広場

28日 法人後見・市民後見推進協議会
◆葦合文化センター

29日 職場見学バスツアー(中・西播磨コース)
◆協和学園、むれさき苑

29日~ 介護支援専門員専門研修課程II・更新研修A(後期)
◆神戸ファッションマートほか

30日 保育リーダーゼミ
◆県福祉人材研修センター

第1回社協ワーカー実践研究会議
◆県福祉センター

31日 兵庫県社会福祉大会
◆丹波篠山市立田園交響ホール

福祉の就職説明会 in HYOGO

◆地域に密着した就職説明会を開催いたします

尼崎会場 (尼崎市中小企業センター)

10月12日(土) 13:00~16:00

明石会場 (あかし市民広場)

10月26日(土)、27日(日) 各日 13:00~16:00

参加費無料
予約不要

>詳細は兵庫県社協ホームページへ
<https://www.hyogo-wel.or.jp/work/>

【問い合わせ先】 兵庫県社協 福祉人材センター TEL078-271-3881

兵庫県社協 出版図書のご案内

◆高齢者施設でのケアマネジメントの参考に...

施設ケアマネジメント研修テキスト

◆経営計画策定の参考に...

社会福祉法人経営計画 策定ワークブック

>詳細は兵庫県社協ホームページへ

<https://www.hyogo-wel.or.jp/about/books.php>



【申し込み・問い合わせ先】 兵庫県社協 企画部 TEL078-242-4633